

バス待合所 改修に挑戦

中央商店会館 八工大生、若い感性で

五戸

八戸工業大感性デザイン学部創生デザイン学科の学生有志が、五戸町中心商店街の老朽化したバス待合所のリノベーション(改修)を手掛ける。13日、まずは町について知ろうと学生10人が商店街周辺でフィールドワークを行い、魅力や課題を探った。今後、住民と意見交換しながらデザイン設計を進め、町を象徴する待合所の完成を目指す。(出川しのぶ)

待合所は地元町内会の銀座 有する「五戸中央商店会館」振興会(福井義幸会長)が所で、築40年以上が経過してい



フィールドワークで得た情報を共有し合う学生ら

住民と協力 完成目指す

る。空き家リノベーションに取り組み町地域おこし協力隊の呼び掛けに同学科が呼応し、学生有志を募った。

この日、参加した学生は1年生が中心。フィールドワークでは4班に分かれ、町中で気になった物をスマートフォンで撮影し、立ち寄り、懐かしさのある町並み。この商店では話の聞き取りを行った。活動の間には待合所の2階に集まり、それぞれ得た情報を共有し合った。

今後、この日の成果を基に地元住民とワークショップなどを重ね、新たな待合所のアイデアを出し合う。完成の時期は決めていないが、高橋史朗教授は「五戸の価値を結集したシンボリックな待合所にしたい」としている。



学生がリノベーションに取り組むバス待合所「五戸中央商店会館」

同町出身の田中館瑠花さん(18)は「これまでとは違う視点で見て回ることができ、発見があった。みんなの面白いアイデアを集めたい」、三戸町出身の高松有咲さん(19)は「裏道が多くわくわく感があり、懐かしさのある町並み。イベントで人が集まるような待合所もいいと思う」と話していた。

福井会長は「大学のノウハウを生かしたい。若い感性で町にマッチする待合所ができれば」と期待を寄せた。